

2021年度 事業活動報告

1. 事業活動点検・評価

コロナ感染症は、まだまだ終息の見通しが立たず、マスクの使用は日常になりましたが、WE ショップの営業は通常時間になり、コロナ以前のような状況に戻り、民際支援金は約 30 万円以上を送金することができました。2021 年度は、特に、「第 3 世界ショップ」のフェアトレード品や復興支援品の気仙沼の海産物「ムラカミ」の昆布・ワカメ等の販売を進めました。また地域の障がい者作業所支援として菓子類を販売しました。海外から国内まで、協力できることを考えて取り組みました。

世界の状況に目を向けると、8 月にはアフガニスタンで政変があり、これまで現地で支援を続けてきた女性の識字教育がタリバン政権によって禁止となってしまいました。

また、2 月には、ロシアによるウクライナへの侵攻が始まり、連日の悲惨な報道には、目を背けるばかりです。私たちも微力ではありますが、4 月から募金活動を始めました。

私たちの活動の基本理念は、「環境・人権・平和」です。どれもとても大きく、具体的な解決の糸口に到達しているとはいえませんが、小さくても活動を積み重ねていきます。

2. 事業活動報告

(1) 資源のリユース・リサイクルを推進する事業（リユース事業）

- ① WEショップいせはら」の運営を行いました。
 - ・ 市民から寄付された提供品を整理・販売しました。
 - ・ エコものセンターの物流(キャリー便)を利用して、提供された品物を季節ごとに仕分けして、季節に合った品物を販売することに努めました。
 - ・ 今年度も、コロナ感染予防対策をおこないながらの営業となりましたが、前年度のような休業や時短営業をすることなく、平常通りの営業を行うことができました。
 - ・ 店内のレイアウトを一新するために、5 月の連休を利用して、レジ台の移動、商品の配置替えを行いました。お客様からは「店内が明るくなった」「商品が見やすくなった」など多くの声を頂きました。
 - ・ 夏季のセールは、感染状況を考慮して半額券の配布(500 円以上お買い上げの方)を実施しましたが、冬季からは 2 年間実施できなかった半額セールを実施しました。お客様にはマスク着用・手指の消毒を徹底し、店内では密を避けるために、人数制限を設けました。
 - ・ ボランティアミーティングは、今年度は 1 回のみで開催でした。12 月の大掃除終了後に、基本的なボランティアマニュアルを配布して、内容を確認し共有しました。また、新しいボランティアさんが 2 名増えました。計 21 名のボランティアさんとともに、「スタッフ+ボランティア 2 名」の体制が整い、日々の業務をスムーズに進めることが出来ました。

	昨年度実績
営業日数： 284 日	(250 日)
売上： 5,248,440 円 (月平均 437,370 円)	(4,538,687 円)
来客数： 延 8,720 人 (月平均 726 人)	(8,397 人)
提供者数： 延 1,991 人 (月平均 166 人)	(1,798 人)
ボランティア：延 780 人 (月平均 65 人)	(712 人)

- ・ 次の企画を行いました。

6/23～24	19 周年開店記念日 (半額券配布)
7/26～31	夏物セールの際りに半額券配布
9/21～25	バック・アクセサリフェア
11/29～12/2	冬のセール (全品半額)
12/24, 25	歳末セール
2022 1/6	初売り (お年玉券配布)
2/28～3/2	和もの市

- ・ 2 月の恒例の「和もの市」では、着物、和装小物などを販売しました。そのまま着られる着物もありましたが、リメイクに活用できるものが多くあり、「和もの市」終了後も 3 月中旬まで継続して販売しました。売上額を伸ばすことができました。

② 寄付された品物で販売に適さないものは適正に処理をしました。

- ・ 衣類・カバンは、WE 2 1 ジャパンが提携している W. C o キャリーの運送に託し、(株) ナカノのファイバー工場へ搬入しました。
- ・ 事業系廃棄物として、(有) タチオカと契約し可燃ごみ (1 袋 500 円)・不燃ゴミ (1000 円) を分別し排出しました。
- ・ 綿製品のファイバーの一部は、小規模多機能施設「風の丘」でウエスとして利用していただきました。(1 袋 200 円で売却)
- ・ むいぐるみは、障がい者地域作業所「工房小野橋」で活用していただきました。

③ 資源の活用や民衆支援のために利用できるものの集積場所としてショップを活用しました。

- ・ 世界の子どもたちのために使われている「ユニセフ外国コイン募金」の収集に協力しました。
- ・ フードドライブを 10 月と 3 月に実施し、集まった食料品は、「フードバンクいせはら」(実施団体：いせはら相互扶助の会ふらっと、協力団体：めぐみ不動産) に届けました。この団体は、生活困窮者や女性のシェアハウス入居者等に食料品を届けています。
- ・ 「グリーン・ダウン・プロジェクト (GDP)」に加入し、羽毛布団やダウンジャケットの回収に協力しました。
- ・ 7 月より、使用済みの携帯電話等の小型家電の回収機「めぐりケータイ」を店内に設置し回収に協力しました。回収した機器は、WE21 ジャパンでまとめて三晃金属 (株) に送り、内部に使用されている希少金属を取り出して売却し、収益はフィリピンの鉱山跡地の環境回復活動をし

ている BGA 事業の口座に振り込まれます。発展途上国での鉱山開発による環境破壊と私たちの身近な生活がつながっていることに理解を深め協力する活動です。

WE ショップいせはらでの 2021 年度回収数は、44 個（携帯 36 個、バッテリー等 8 個）でした。（WE 全体では 175 個、売却益 11,693 円）

④ リメイクチームが活動しました。

毎月第 1 日曜日の午後、ショップバックヤードにて行いました。ショップにある材料を活かして、小物づくりを行い販売しました。チームでは、メンバーが主に小物などの制作をしました。その他、チーム参加者以外の協力メンバーもあります。

4月4日	着物ほどき	8名
5月2日	着物ほどき	7名
6月7日	マスクストラップ：28本、お手玉：33個	7名
7月4日	花かごのブローチ	9名
8月1日	ぼんぼりストラップ	9名
10月3日	寅の飾りもの	9名
11月7日	クリスマスオーナメント	9名
1月9日	和柄のスクエアバッグ	10名
3月6日	ふくろうの人形	10名

⑤ スムーズなショップ運営と事業経営のため、WE 21 ジャパン主催の講座等に参加しました。県央ショップスタッフ連絡会の開催はありませんでした。

3月29日 サーキュラーコットンファクトリー（CCF）説明会（覚知 Zoom 参加）

《日時》	通年
《場所》	伊勢原市石田（WE ショップいせはら）
《従事者》	理事 6名、ボランティア 実人数 20名
《受益対象者》	主に伊勢原市石田周辺在住の市民 顧客数 8,720名、 寄付者数 1,991名
《支出額》	4,475,585円

(2) アジア等における市民、とりわけ女性の生活の向上と自立のための活動を支援する事業（民際支援）

① WE 21 ジャパン・伊勢原の支援事業

2021 年度の民際支援費は、国外に 308,581 円（前年度 156,8161 円）で、前年度より約 15 万円の増額となりました。前年度はコロナ対策による閉店や時短営業の影響がありましたが、売上額が通常に戻ったことによります。

支援先・金額等の討議決定は、理事会で行いました。支援先の担当者を決めて分担して対応

しました。理事会では新しい支援先の提案を各理事から募り検討しましたが、新規の支援先の選定には至りませんでした。

●2021年11月11日、2022年3月11日

団体名：認定NPO法人 幼い難民を考える会（CYR）

国名：カンボジア

金額：153,000円

布チョッキン 53,000円（お人形16体、ボール74個）

（10月18日・19日の売上金31,620円を含む）、助成金 100,000円

内容：就学前教育が遅れている農村地域に「村の幼稚園」を開設し、4年目からは地域運営に移行できるように支援しています。また識字率が低い地域の女性たちに対して理解を深める活動をしています。2021年度は昨年を引き続いて、10月の「貧困なくそうキャンペーン」の期間に、「布チョッキン」を実施。布ボールの裁断は、店頭でお客様にも協力していただいていた行いました。

継続：3年目

●2021年1月14日、3月11日

団体名：日本イラク医療支援ネットワーク（JIM-NET）

国名：イラク・シリア・日本（福島）

金額：120,100円（チョコ募金20,100円、助成金100,000円）

内容：チョコ募金（イラク・福島の子どもたちとシリアの難民を支援するための募金）に協力、及び活動に対する支援金は、イラク小児がん支援、イラクに逃れてきたシリア難民妊産婦やイスラム国の迫害にあった女性たちの支援などを行っています。

継続：6年目

●2022年3月3日

団体名：YVO（Your Voice Organization）

国名：アフガニスタン

金額：35,481円（募金5,481円、助成金30,000円）

内容：アフガニスタンにおける地域教育/識字アクション

前年度までは、JVC（日本国際ボランティアセンター）アフガニスタン事業として実施していましたが、JVCの方針により事業が終了したので、現地団体YVOを直接支援することとなりました。現地との通信・翻訳・送金等の事務をJVCに事業委託し（委託料10万円/1地域12,500円）、委託契約を結びました。

年度当初は、村人パートナーグループの結成、識字教育教員の選定、教員研修、教室運営、啓発活動等を計画していましたが、しかし2021年8月タリバン政権への大きな政変により、女性に対する教育を進めることができなくなりました。現地団体YVOでは、実施に向けて政府への働きかけを続けています。さらに、政変により現地への送金ができない状況が続いており、支援金は日本国際ボランティアセンター（JVC）に預り金として送金しました。

継続：5年目

② フェアトレード品等の販売

- ・しょうがパウダー（フィリピン）、シサムコーヒー（フィリピン）、オリーブ石けん（パレスチナ）の販売をしました。特に、しょうがパウダーは、WE21 ジャパンが現地での製品化・パッケージの制作、輸入、販売までを手掛けてきたものであり、現地住民の方々との関係を構築して、WE ショップで販売している貴重なフェアトレード製品です。広報にも力を入れていかねばならないものです。シサムコーヒーについても、現地 NGO と交流しながら生産量のアップや品質の向上に対して、支援をしてきたもので、さらに販売を広げていきたいと思っているものです。オリーブ石けんは、製造が中止となり今年度で終了です。
- ・「第3世界ショップ」から、チョコレート、ドライフルーツ、カレー等を卸購入し販売しました。
- ・復興支援品として、気仙沼のワカメ・昆布等の海産物業者「(有) ムラカミ」から卸購入し販売しました。おいしいと非常に好評でした。
- ・障がい者地域作業所の支援を目的に、菓子類の販売をしました。
(社福) 伊勢原市手をつなぐ育成会 地域作業所ドリーム (伊勢原市桜台) のポップコーン
NPO 法人脳外傷友の会ナナ ピアサポートセンター「スペースナナ」(厚木市愛甲) のクッキー

③ 支援の充実のためWE 2 1 ジャパン主催等の講座や学習会、NGO等の報告会に参加し、情報収集に努力しました。

- 6月7日 アフガニスタン連絡会（浜田参加）
- 8月3日 しょうがパウダーミーティング（米永参加）
- 8月24日 アフガニスタン報告会（報告者：小野山亮さん）（浜田 Zoom 参加）
- 9月16日 アフガニスタン連絡会（JVC 報告）（浜田 Zoom 参加）
- 11月4日 アフガニスタン連絡会（浜田 Zoom 参加）
- 11月11日 BGA 会議（浜田参加）
- 1月18日 BGA 会議（浜田参加）
- 2月9日 アフガニスタン連絡会（JVC 報告）（浜田 Zoom 参加）
- 2月21日 アフガニスタン連絡会（JVC 報告）（浜田 Zoom 参加）

《日時》	通年
《場所》	アジア地域、伊勢原市、厚木市
《従事者》	理事 6名
《受益対象者》	アジア地域の団体、神奈川県内
《支出額》	677,735 円

(3) 地域市民の国際的な意義の自覚を促進する事業（共育活動）

支援事業・資源循環事業を推進していくうえで必要な情報を共有する場として「WE講座」を3回開催することとしていましたが、コロナ感染対策があり、オンラインで1回開催しました。初めてのオンラインでしたが、機器を備えて開催でき、今後につなげていきます。

● 2021年1月17日（月）

「幼い難民を考える会の活動報告」

講師：関口晴美さん 幼い難民を考える会（CYR）事務局長（オンライン）

参加者：11名

内容：カンボジアでの活動の開始から、現在の活動の説明がありました。各地で「村の幼稚園」を作り、4年後には地域運営に移行しています。「布チョッキン」のボールやお人形を縫製している保護者や、子どもたちが日常の遊具に使っている様子の報告があり、理解が進みました。

● 支援の充実のためWE 21 ジャパン主催等の講座や学習会等に参加し、情報収集に努力しました。

3月13日 フェアトレードワークショップ（浜田 Zoom 参加）

《日時》	通年
《場所》	WEショップいせはら
《従事者》	理事7名
《受益対象者》	近隣市民
《支出額》	1,630円

(4) この法人の事業の広報普及を図る事業（広報活動）

- ① WE 21 ジャパン・伊勢原のHPに活動予定や報告を掲載しました。
- ② WE 21 ジャパン・伊勢原の活動を伝える「WEニュース」を発行しました。
年3回発行の予定でしたが、年2回となりました。

№. 62（2021年6月1日発行）（1,000部発行）

フェアトレード品の紹介、2020年支援先情報等

№. 63（2021年10月1日発行）（300部発行）

貧困なくそうキャンペーン、フードドライブお知らせ、
アフガニスタンへのメッセージ

「WEニュースCM版」は、随時市内に配布しました。（約1,000部配布）

- ③ 店内の掲示・パンフ類は、国内外の支援先の情報を掲示しました。
キャンペーン、WE講座、セール等の案内の掲示を行ないました。
- ④ 事業の充実のためWE 21 ジャパン主催等の講座や学習会に参加し、情報収集に努力しました。

《日時》	通年
《場所》	WEショップいせはら
《従事者》	理事 7名
《受益対象者》	近隣市民
《支出額》	27,637円

3. 事業を進めるための組織活動

1) 組織活動

- ・理事会は、毎月、原則として第1土曜日午前に開催し、計画に沿って提案・討議し、実行しました。
- ・会員数は33名です。新規のボランティアの方に積極的に入会を募りました。（目標40名）

2) WE21ジャパンおよびWE21地域NPOとの連携

- ・WE21ジャパンの団体会員になっています。（団体会費50,000円）
- ・WE21ジャパンとの契約に基づき、年額462,334円（物流事業費342,334円、商標使用料120,000円）を、WE21ジャパンに事業委託しました。（昨年度は年額479,425円）。WE21ジャパンでは、WE21地域NPOの中間支援組織としての活動経費（人件費、事務所費、広報、情報の収集・分析・発信）、および物流管理などの事業を行っています。
- ・理事長、理事が、グループ会議、学習会・報告会等に参加・協力しました。

3) 地域および他団体との連携

- ・県立伊勢原養護学校伊志田分教室の生徒2名のインターンシップ研修に協力しました。4月から、長期休業の期間を除き、毎週火曜・木曜の10時30分より12時まで、担当の教師と連絡を密にして、トラブルもなく協力できました。
- ・市内の環境に関わる活動を行っている団体の連携組織である「いせはら環境市民ネットワーク」（エコネット）に参加しました。
プラスチック海洋汚染と放射線汚染災害に関するDVDの貸し出し拠点として協力
11月～1月 ストップ温暖化展の代替として動画での活動紹介の動画配信に参加
- ・市民活動サポートセンターに登録して、印刷機等を利用しました。
11月20日 市民活動サポセンフェスタでは、フェアトレード品等の販売ブースに参加、また団体の活動とフェアトレードWSの動画配信に参加しました。
- ・石田商工振興会に加入しています。
- ・石田自治会に加入しています。

4) 納税額

2020年度の税金は、70,000円（前年度は86,300円）を支払いました。

《日時》	通年
《場所》	WEショップいせはら
《従事者》	理事 7名
《受益対象者》	近隣市民
《支出額》	127,636 円